

003

哲学初歩 (36)

近代哲学の祖デカルトの新しい読み方

講座内容

デカルトは、しばしば近代哲学の開祖と言われます。なぜでしょうか。近代哲学はそれに先行する中世哲学とどう違うのでしょうか。近代は自然科学の発展と、人間の価値の発見によって特徴づけられます。人間の価値の発見とは何を意味するのでしょうか。デカルトは、こうした条件のもとで問題群に果敢に挑戦しました。それをたどることによって、近代のみならず、現代の問題を考えてみたいと思います。

期 間	9月26日～12月5日	受講料	7,500円
曜 日	木曜日	定 員	40名
時 間	14:00～16:00	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全6回	持ち物	筆記用具
教 材	講師が毎回レジュメやプリントを用意します。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	9月26日 (木)	はじめにーデカルトの問題 17世紀の西洋哲学の状況と自然科学の発展
2	10月10日 (木)	「我思う、故に我在り」の「我」とは何か 主観=主体として発見された「我」と「思考」との関係。また、一時期流行った「他者」の問題
3	10月24日 (木)	デカルトにとって「神」とは何か 近代哲学にとって神はどう考えられているのか。
4	11月 7日 (木)	デカルトにとって「世界」とは何か それは、自然法則が貫徹する物質世界なのか。
5	11月21日 (木)	「言葉」という隠された問題 自我、他者、神、世界、普遍などなどは、本当は言葉の問題ではないのか。
6	12月 5日 (木)	おわりにーデカルト以降の哲学の展開 近代哲学から現代哲学へ

講師紹介



杉田 正樹(すぎた まさき)

本学名誉教授

このところずっと、言語の哲学に強い関心をもっています。哲学の営みも、広く人間の営みも、言語なしでは在り得ません。沈黙することすら、言語があって始めて成り立ちうるのです。言語の観点から三木の哲学に挑戦してみたいと思います。